

手を洗おう会 会報



(優秀賞 北見市立 南小学校 4年生 玉置郁子さんの作品)

第二版 2005年6月発行



はじめに

今年 3 月セネガルに参りました時、偶然出会ったフランス人のフローランス・デゥボーさん。彼女のお父様はこよなくセネガルを愛し、またご主人様は日本人と伺って、なにか赤い糸で結ばれたご縁のような気が致しました。早速『手を洗おう会』の会員になって下さったフローランスさんは、会のメンバーのためにフランス語講座も開いて下さることになり、これからセネガルと日本の『かけ橋』になって下さるのではと期待しております。

設立して三年目を迎えた『手を洗おう会』、会報第二版では、この一年の活動が凝縮されております。特に初めてセネガルやヴェトナムを訪問した会員の思を綴った手記は、皆様の興味を惹いていただけると確信いたします。それぞれの国での体験記を是非お読みになってみて下さい。来年は皆様で是非、両国にご一緒しませんか？ 又ヴェトナム料理はハノイの若き支部長・グエン家の春巻きです。心のこもったこの春巻きを在越中、お正月の度にご馳走になりました。調味料は『愛情』。愛する方に一度作ってみて下さい。

最後になりましたがこの一年間、様々の分野でご協力して下さいました皆様に心から御礼申し上げます。

2005 年 6 月 16 日

コミティメンバー

古屋典子記

(目次)

P1	: はじめに	
P2	: 発足理由&絵画募集	
P3	: 活動内容	
P4&P5	: セネガルを訪問して	山本恭子
P6&P7	: ヴェトナム訪問記 ーハノイでの国際交流	浦城幾世
P8	: パリ・8 区の区役所で行われた絵画展に寄せて	堀江洋子
P9	: 在ヴェトナム・全権大使 服部則夫氏を招いて	内野訓子
P10&P11	: 2004 年・セネガル祭典を味わって	山田順子
P12	: パリ在住、前田恵美子さんの特別講演を伺って	鹿嶋淑子
P13	: 「川崎市子供絵画展」開催を経験して	前田一
P14	: 手洗い順序	
P15	: 会計報告&会費振込方法	
P16	: ヴェトナム支部長から「春巻」の紹介	フォン・ラン・グエン

コミティメンバーが心を込めて書き上げた手記です。お目を通していただければ編集させていただいた一同大変嬉しく思います。

編集 : 石井里江子、飛鳥妙子、村上範子、杉浦保子



発足理由＆絵画募集

発足の理由

2000年から2002年の約2年。有志で「小さな手助け運動を」と称し、セネガルの教育や文化を犯さずにお手伝いできるもの－孤児院訪問、生活の苦しい人々への食事の分配、女性刑務所への生理用品配給などのボランティア活動を施行。それらの活動の中、「個人」と「個人」という社会生活の最も基本であり万民に必要という判断の元、衛生向上中でも「手洗い」にだけ絞り2002年10月、ボランティアの会を立ち上げることになりました。

一方、日本でも2002年12月、「手を洗おう会」を設立。昨年よりベトナムにもその輪を広げ、パリの方々にも協力を願い、セネガル＆ベトナム両国を通しより大きな見地から地球を考え、衛生向上のためお互いに協力し合いパートナーシップを育てようという目的です。発足二年余りのまだまだ未熟なアソシエーションですが、輪を持って活動を続けており、今年はパリにてユネスコの松浦事務局長にもお目にかかって参りました。地球にある色々な国の衛生向上を目指し、先ずは足元から一步一步とこの「手洗い運動」を広げていきたいと考えます。

子供絵画募集

“手を洗おう会”ではセネガル、ベトナム、フランスそして日本、各国の小学生から楽しい絵を募集しています！懸賞 最優秀賞 男子:サッカーボール

女子:カメラ、ほか学用品

対 象 : セネガル、ベトナム、フランス、日本の小学生
題 : 祭り(祝い事)ー誕生日、お正月、弟誕生などおめでたいことも可
画用紙サイズ: **A3**
画 材 : 色鉛筆、絵の具など何でも可

第二回 締 切 日 : 2005年8月31日 (火曜日)

絵の送り先 : 絵画総責任者 **内野訓子** Tel&Fax03-3704-1229

158-0081 東京都 世田谷区 深沢3-28-21



「手を洗おう会」

活動内容

セネガル&パリ

- 2002年 10月、リベリテ5など6つの小学校にケトルセット、石鹸、
タオルを配布。以後三ヶ月ごとに石鹸、タオルを配布。
- 2003年 3, 4, 5月「手を洗おう」と題する絵を募集
- 2003年 6月優秀作の展覧会 賞品を渡す
- 2003年 12月配布する学校を検討。2校に絞る
- 2004年 3月27日、次期セネガルの責任者を検討、タイバンジャイ視察
- 2005年 3月、支部長イナと共に4校を訪問、絵画を依頼。山本恭子、位田和美、
原田昌子、三上朋子らとサン・ジョセフ神学校を視察
20日午前11時から約二時間-会員5人でウッド大統領夫人謁見
サント・マリー校で展示会&紙芝居を公開
3月 パリ・8区市役所で子供絵画展示会、4区で人形展、習字、セネガル
写真展、お茶会を開催、ユネスコ松浦事務局長にお目にかかり、活動を報告。

日本&ベトナム

- 2003年 3, 4, 5月「手を洗おう」と題する絵を募集
- 2003年 3, 4月にわたり、募集した絵をパリまで運ぶ
- 2003年 5月、会員4人がセネガル大統領夫人と都内ホテルで会見する
- 2003年 6月 JAT の高松章二氏に残りの絵や景品をセネガルへの搬送を託し、またセネガルからの絵を日本まで運んでいただく
- 2003年 12月1日から5日まで在京セネガル大使館で一週間のイベント「躍動のセネガル “美・食・踊” の祭典」を行なう
- 2003年 12月4日恵比寿ウエスティンホテルにて「セネガル食の祭典」と称し、参加者178人にセネガル料理のフルコースを提供
- 2004年 2月27日から3月8日5人の会員によりベトナム・ハノイへ視察訪問。
3月2日に日本大使公邸にてお茶会、人形展などの日本文化紹介
- 2004年 10月28日 ジュン・アシダサロンにて前田恵美子女史 賛助講演
- 2004年 11月29日 恵比寿ウエスティンホテルにて
祭典「セネガル、ベトナム、フランス、日本とのコラボレ」を開催
12月19日から川崎国際交流センターにて子供絵画展
- 2005年 1月8人の会員によりベトナム視察、井上靖全集寄贈式。大使公邸にて人形展、お茶会を開催。3校の学校訪問&絵画依頼

セネガル共和国での学校訪問



このたびのセネガル訪問は3月中旬という、向こうでは最も過ごしやすいと言われる季節でした。灼熱のアフリカ大陸のイメージとは少し違って、ちょうど日本の5月頃の気候で、昼間、太陽が照りつけると暑くなりますが、朝夕は肌寒いほどでした。現地滞在は4日間でしたが、古屋典子会長の事前の現地との打ち合わせ、JICA 隊員の位田和美さん、元隊員の原田昌子さん、三上朋子さんのおかげで有意義な視察が出来、感謝しています。

最初の訪問校を訪れるためにジョーアルへ向かいました。ジョーアルへは車で首都ダカールから海岸線を約150Km 南下しましたが、車窓に広がる景色、町並みは日本とは全く違ったものでした。ダカールを出ると道路沿いに小さな街があらわれ、それを通り過ぎるとまたバオバブがポツポツと生えている乾燥した大地が広がります。そしてしばらく行くとまた小さな街があらわれます。街には果物などを売る露店、昔、日本の村にあったような何でも屋さん、テレホンセンターがあったり、鶏が歩いたり、子どもたちがサッカーをしていたり、ゆっくりとした時間が流れている様子でした。特に女性の着物がカラフルで多くの人が洋服と同じ生地を頭に巻いているのがとてもお洒落。小さな子どもはお母さんの背中に負ぶさっているのですが、日本とは違ってかなり低い位置、お母さんのお尻の上あたりにまたがって布でくるまれています。これがまた、高い位置にあるお尻にぴったりとはまっているのです。きっとこの子どもたちはこうやって母親の暖かさを感じ取って大人になっていくのでしょう。このような街の風景と乾燥した大地を何度も繰り返すうちに、ジョーアルに到着しました。

私の最初の訪問校は JOAL SEMINAIRE SAINT-ZOSEPH DE NGASOBIL 。ここは、神学を教える男子ばかりの全寮制中学校でした。水がたいへんに確保し

にくいところでは「手洗い」は定着しにくいのですが、ここの学校には水洗トイレや広い手洗い場があり設備面では整っているのです。私たちの「手を洗おう」という活動が伝わりやすい学校だと思いました。マリオネットが付いた紙芝居「ママドゥーとアミナタ」をしました。マリオネットを使って子どもたちと対話しながら1日の生活の色々な場面で手を洗わないといけないことを伝えました。その後で、手洗いの動作をしながら子どもたちと一緒に歌を歌いました。マリオネットという形式が珍しく興味をひいたようです。私たちが何よりも驚いたのは、ここの子どもたちの集中した眼差しです。日本ではあり得ない！興味津々なきらきらと輝いた瞳に、マリオネットをしている私たちのほうが感動させられました。手洗い場に手洗いのポスターを貼らせていただき、タオルを提供することが出来ました。



ジョアルでは私たちは修道院の宿泊所に泊まらせていただきました。そして、そこに併設されている学校、15歳前後の女の子の学校だと思いましたが、そこで、マリオネットや歌を披露しました。修道院のシスターから、やがて母親になるこのような年代の女の子に今からきちんと衛生教育をしておくことが家庭の衛生状況を良くするために大切だという貴重なご意見をいただきました。

ダカールでは **COURS SAINT MARIE DE HANN** という学校を訪問しました。ここでは、絵画展を開いていただいております、小学生の低学年と高学年を対象に2回のマリオネットをすることが出来ました。ここの学校も水道が整っているのです。「手を洗おう」という活動を定着させなければいけないと実感しました。

今回訪問することが出来た学校はいずれも水道や手洗い設備が整った学校で、手洗いが習慣として定着しやすい地域性がありました。しかし、セネガルでは水の確保が難しい地域が多いと聞いていますので、そのようなところではどのような形で協力していくべきかが、今後の課題ではないかと思っています。

兵庫県立大学 看護学部 助手
山本 恭子

<ヴェトナム訪問記>

ーハノイでの文化交流ー

父井上靖の死後十年余りをかけて編集された井上靖全集 29 巻が平成 7 年から 12 年にかけて新潮社から刊行された。父は生前、日本はこれから世界の多くの国々と付き合いながら、お互いを理解しあって行かなければいけない。諸外国の人々に日本を理解してもらう為には小説家としては、少しでも日本の文学を読んで貰いたいと考え、文学を通して日本を理解して貰う事に力を注いできた。私共は父の願いを少しでも果たそうと、この全集を世界各国の日本語及び日本研究に実績のある 27 ヶ国の 55 機関の大学や研究所、図書館などに国際交流基金を通して贈呈してきた。この度は父が晩年政府の委員会で、ご一緒に仕事をした事がある在ベトナム・服部大使のお世話でベトナム国家図書館に全集を寄贈する事になり、本年 1 月 21 日から 28 日まで私にとっては初めてのベトナム訪問となった。それぞれが文化交流の仕事をする 8 名の方たちとご一緒した。

ベトナム滞在 4 日目の午前中、ベトナム国家図書館で「井上靖全集」の贈呈式が行われた。玄関ロビーには椅子が並べられ、正面の壁には日本とベトナムの旗が飾られ、全集がきちんと並べられていた。出席者は 60 人位であったと思う。

まず日本から服部大使が「ベトナムにおいて、目下日本語を学びたいと言う若者が急増しており、ベトナムの希望にどのように応えていくかが私の大使としての大きな仕事の一つです。これを機に国家図書館に対して、日本関係図書を引続き寄贈したいと思います。」と挨拶された。続いて、国家図書館館長は「本日は日本大使館の御協力の下で、ベトナム国家図書館は著名な作家である井上靖氏の 29 巻の全集を井上家から寄贈して頂きますことを大変嬉しく思います。この全集はベトナムの読者に読まれると信じております。更に沢山の読者に読まれる為に井上靖氏の作品がベトナム語に訳される事を希望致します」と述べられた。

私も前述した生前の父の願いはもとより、私の将来の希望をお話した。これからはベトナムで日本語や日本文学の研究をしたり、しようと思っている人達に本を読んで貰い、更に翻訳して貰う事が大切であると思う。そして遠い将来井上靖研究家がベトナムの国にも育ってくれる事が何よりも嬉しい事である。ベトナムに日本語の文学書が寄贈されたのは初めてのようだ。



この日は夕方から日本大使公邸で、10代半ばからパリで勉強され、国際的に活躍している宮澤むじかさんのピアノリサイタルとパーティが開かれた。アオザイをお召しになった女性の副首相をはじめとする政府関係者、各国大使、ハノイで活動している日本の方々が奥様と一緒に招かれ、文化交流と親善を深める素晴らしい催しだった。

このベトナム旅行は前セネガル大使夫人だった古屋さんとご一緒したのだが、彼女は「手を洗おう会」を主催している。外交官夫人として開発途上国に滞在され、『セネガルにおいて乳幼児の死亡率が大変高いのは、衛生状態悪いため。食事の一つの大皿から手づかみで長老者から食べ、バクテリアの入ったその大皿から最後に子供が食べる為、赤痢などの病気にかかり易い』と私に話して下さった。食事の前に手を洗う習慣を付ける事で随分違って来るのではないかという考えの下で始められたボランティア活動である。彼女にとって、かつて駐在した親しい国々の幼稚園や小学校を訪ね、タオルや石鹸、手の洗い方を書いた紙芝居や説明書などを渡す。また、クレヨン、画用紙などを沢山持って行き、子供達に絵を書いてもらい、良い作品には賞を出して各国に持って廻るという国際交流も深めておられる。私も皆さんと一緒に、ハノイ市内の私立の幼稚園や郊外の小学校へ出かけて見学した。また、世界遺産になっているハロン碗へ出かけた折、そこで水上生活している子供達の小学校の先生達 4 人に話を聞く事が出来た。この先生達も水上生活をしながら、教えている。とにかく字の読み書きが出来るように指導していると言う。水上で生活しているので、すぐ海の水を使ってしまうのがとても汚い。手を洗おう会の主旨を理解して貰おうとしたが、とてもそこまでは出来ないし、自分達では決められないとの答えだった。ハノイ市内の私達の行った幼稚園は大使館のそばの新興高級住宅地にあり、子供達の服装や設備など日本の一般の幼稚園より、もっと贅沢な感じがした。ベトナムの中では大変格差があると聞いていたが、改めて子供の上にも生活のしかかってきている事がよく分かった。

私達それぞれの文化交流、ベトナム訪問も最後は大使館での内野訓子さんのお茶会と森美可さんの母上の人形展で幕を下ろした。この日は、ヴェトナムを中心に『手を洗おう会』で募集した絵も飾られ、近くの幼稚園の子供も招かれ、大使館のご夫人方よりお手前をふるまわれた。外務省の関係者、日本企業の駐在の奥様達、色々な仕事でベトナムに滞在される方に雑談を交えてお話しさせていただいたが、皆ベトナムはとても住みやすい所と言われた。私が最初に感じた親しみやすい街だという印象ともよく合っていた。これから伸びようとする活気に溢れる勢いのある国。10年後はどうなっているだろうか。今度はベトナムの南の方へぜひ行きたいと思う。

ハノイにて 浦城いくよ記



<手を洗おう会の紙芝居に聞き入る子供達><水上学校の先生たち（前列）>
（左：ハノイから1時間程郊外へ離れた所にあるバクザン小学校にて）

パリ・8 区の区役所で行われた絵画展に寄せて

会場は、パリ凱旋門から程近い8区の区役所。私達が準備のため乗り入れると既に写真家のアラン ブーレ氏が、若い助手と二人で一生懸命に会場設営に励んでいた。



このたび、春の叙勲で旭日小授賞を受けられた赤木廣二郎(廣の横に貝偏が付く)画伯も、奥様とご一緒に見に来てくださり、一時間以上我々と一緒に会場に留まってくださった。パリではちょうど学校が春休みに入った時期という事で、児童が団体で訪れるということは期待できなかったが、しばらくして、可愛らしい幼稚園の児童が 20 数名、若々しい元気な先生に引率されて訪れてくれた。とたんに、会場がにぎやかに華やぐ。児童たちは、先生の説明を聞いたり、各国の絵を熱心に見て回り、始終楽しそうに過ごしてくれ、来年も是非絵を描いて参加すると約束して帰って行った。

ほどなく、入賞した男の子、マチュー君が両親と一緒に正装して会場に現れた。賞品を渡して一緒に記念撮影をしたのだが、この時の彼の素晴らしい笑顔、誇らしげで喜びいっぱいの彼の気持ちが私達にも伝わり、会場にも笑顔が広がる。

一步遅れでもう一人の入賞者であるサラちゃんも父親と訪れ、再び二人を交えて記念撮影をする。

彼らの喜んでいる姿を見、又この日の為に一生懸命準備をしたたくさんの人達、とりわけ、絵を描いてくれたフランス、ヴェトナム、セネガル、日本の子供達の熱意を考えると、この絵画展を絶やさず、もっとたくさんの人に見てもらえる様、一層発展させていきたいと切実に思った。

コミティメンバー 堀江洋子 記



<フランス優秀賞に輝いたマチュー君とサラちゃん>

—服部則夫大使をお招きして—「ヴェトナムの今」を語る

2004年6月3日、ウエスティンホテルにて『水無月の宴』を開催致しました。一時帰国なさっていた在ヴェトナム、日本大使に『ヴェトナムの今』と題して、いろいろな角度から貴重な興味深いお話を伺いました。ヴェトナム戦争後30年を経ても尚、枯葉剤やダイオキシンの影響に苦しむ人々、一方でODAの援助でめざましい発展を続ける経済成長。二年続けてヴェトナムを訪れた私は郊外の街の変化に目をみはりました。

もともとヴェトナム人のIQはとても高く、向上心の強い国民性だそうです。服部大使のヴェトナムのイメージは蓮の花。そういえばヴェトナム航空の機体には大きな蓮の花が描かれています。そしてヴェトナム国民に最も愛されているホーチ・ミンさんの生まれは蓮の村（ヴェトナム語で『ランセン』）という処だそうです。蓮はヴェトナムを象徴する花であり、仏教に欠かせない花でもあります。ヴェトナムの90パーセントは仏教徒で、日本と同じ大乘仏教です。平和の象徴『蓮』を通して日本とヴェトナムの関係をますます発展させていきたいとのこと。交流を活性化するため現に大使は、日本人観光客に対する査証の免除をヴェトナム政府に要請し、2004年1月から実現したそうです。そのお陰で私達はヴェトナムに出かける折、ピザを必要としない気軽な旅が出来ました。来年は是非『手を洗おう会』の活動の拠点でもあるヴェトナムへ会員の皆様とツアーを組みましょう。



<講演をする服部則夫大使>



<各テーブルで服部大使を囲んでの昼食会>

沼尻グランドシェフによる和の器を使った水無月の旬な海のお料理も絶品でした。

又、ヴェトナムでは日本と同様漆の国でもあります。二度の訪問では、民子大使夫人のご厚意で大学の漆教室に参加させて頂き、夫人のプロ級の腕前とセンスの良さに圧倒されてしまいました。その上ご夫妻には「手を洗おう会」の名誉会員を快くお引き受け頂き感謝で一杯です。最後に一人でも多くの方々にセネガルやヴェトナムの実情をご理解頂き、活動にご参加頂けますよう心からお願い申し上げます。

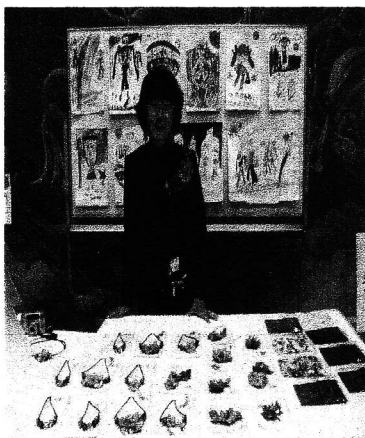
コミティメンバー 内野訓子記

「手を洗おう 2004年の祭典」を味わって

セネガル「美・食・踊」の祭典から一年後の2004年11月29日「セネガル・ヴェトナム・フランス&日本とのコラボレーション」と題し200名以上という多くのご出席を頂きウェスティンホテル東京にて開催されました。

午前中の第一部は「十一」ものブースが並ぶバザーが開かれました。セネガル・ヴェトナム現地民芸品はもとより福袋&ラッフルの品々、そして会員の皆様の手作りコーナーでは遠く北海道北見市から渡部豊夫人が作ったテッシュボックス、仙台の鈴木裕子さんや石塚光子さんのクッキーなど心を込めた暖かい出品の品々が会場いっぱいになされました。また、売り切れとなるには時間の問題と注目を浴びたパリ在住のアクセサリー「IKUO」のジュエリーは、その期待通り午前中には完売となり会に大きな売上を与えて頂きました。そして午後に行われた第四部では他の品々もほぼ完売と嬉しい悲鳴のうちに閉店となりました。

このバザー収益金にて昨年と変わらずセネガルやヴェトナムの子供達のお役に立たつと思うだけで胸が熱くなり、また次のバザーへの未知なき挑戦心がメラメラと湧き出てまいりました。ご協力頂きました沢山の「同士」の皆様、ご一緒させていただきとても楽しい思い出となりました。また重ねまして次回もご一緒させていただけたらと願っております。その節はどうか宜しくお願い申し上げます。



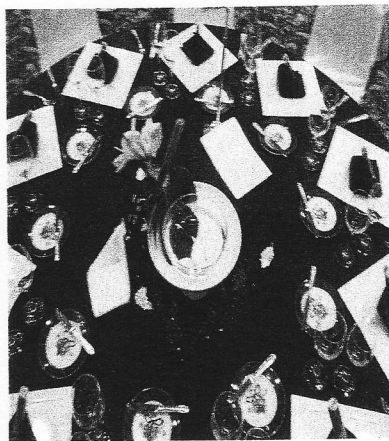
＜手作りブローチを前に北島桂子さん＞



＜盛況なバザー会場＞



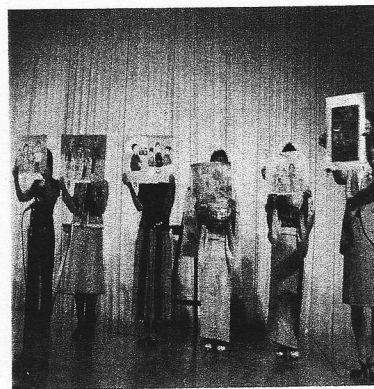
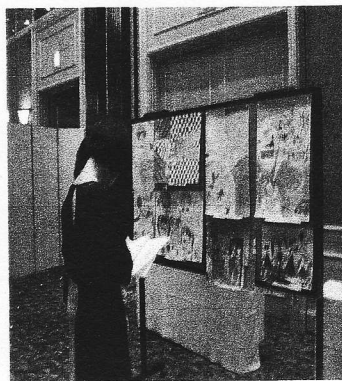
第二部ではこれまた別会場にあふれんばかりの多数の出席にて青年協力隊の原田昌子さんによる「セネガルにおける日常生活と衛生事情」についての講演がスライドを使用して行われました。原田昌子さん初め多くの日本の若者が、セネガル各地で活躍する姿に未来への希望や力強さを感じると同時に頼もしさと尊敬の念を抱かずにはいられませんでした。



＜講演する原田昌子さん＞ ＜祭典のテーブルセッティング&フランス料理＞

第三部は「手を洗おう会名誉会員」のセネガル大統領夫人のお言葉紹介から始まり JICA の黒川恒男部長による乾杯、沼尻グランドシェフ力作の美味しいフランス料理の中、同じく JICA 白石さんのスピーチ、川崎市教育委員会・河野和子教育長からのお言葉と続き会員でもあります宮沢むじかさんによるミニコンサートへと進み、プロのピアノの響きにうっとりとしながら素晴らしい演奏に聞き惚れたのは私だけでしょうか？ラッフル1等賞抽選など楽しい時間が流れ、最後にこの会の代表の一人古屋典子にマイクが渡り深い皆様へのお礼の言葉などを述べ宴は無事閉会を向かえることが出来ました。

この瞬間までに数度のミーティングを行い労働力の提供という共通の作業を重ね、心地よい疲れと充実感をコミティメンバーの皆様と一緒に味わせていただきました事に感謝の気持ちで一杯です。



＜ピアノ演奏をしてくれた宮澤むじかさん&お母様＞＜子供絵画展&最優秀作品の発表＞

最後になりましたが、美しい日本語とうっとり聞きほれてしまうほどの美声で毎回司会進行をボランティアとして担当して頂いております土屋のりさんはじめ、当日受付などお手伝い下さいました沢山の会員の皆様に深くお礼申し上げます。

コミティメンバー 山田 順子記

前田恵美子さんの特別講演を伺って！

昨年 2004 年 10 月 28 日、東京代官山ブテックアシダ本店サロン「フレア」にて、前田恵美子さんの特別講演会『フランス王制時代から帝政時代のモード』がありました。彼女は、パリ在住 33 年で皇室の方々や総理大臣、セレブの方々に美術館を案内されています。実は庶民の私も 7 年間のパリ在住の際、ご縁があつて前田さんより数々の絵画美術の勉強をさせて頂きました。

この度の講演会も難しいテーマにもかかわらず、時代背景を絵画とファッション文化を織り交ぜながらわかり易く説明して下さいたため、どんどんと興味が惹かれ、何時の間にかスーと身体に入り込んでしまった大変中味の濃い内容でした。久し振りに彼女の流れる様な話し方、豊富な知識を一杯吸収させて頂いて、大阪からはるばる参加した甲斐があつたと感謝いたしました。

皆様とご一緒して大阪に帰ると友人から『鹿嶋さん、最近笑顔が多くなった。また元気をもらってきたわね』と友人に言われます。

前田さんのお陰で代官山にて貴重なひと時を過ごし、ちょっぴり私もセレブのお仲間入り気分を味わさせて頂きました。これからも可能な限り、『手を洗おう会』に笑顔を頂きに参ります。

コミティメンバー 鹿嶋淑子記



<講演を下される前田恵美子さん> <前田恵美子さんの講演会場で出席者から選考してもらった絵画をチェック>

2004 年度 川崎市子供絵画展開催を経験して

2004 年の子供絵画のテーマは二ツ“家族”と“モード”でした。
 今回は、日本国内はもとより、セネガル、ヴェトナムそしてフランスの小学校から 500 点以上の絵が集まりメンバー一同嬉しい悲鳴！学校別に分類し、二度に渡る選考会をし、個性ある素敵な作品ばかりの中からやっとの思いで優秀賞を 50 点ほど選択しました。それらの作品を含め各国、計「200 点」ぐらゐの作品は、東京ウエスティンホテルの「祭典」に展示しました。

この「川崎国際交流センター」では、川崎市から出品された「158」の作品全とと各国の作品「100」点の計『258』点を 2004 年の 12 月 17 日（金曜）から 19 日（日曜）の 3 日間、展示しました。東急元住吉駅から 10 分かかるこの展示場は、立派な施設なのですが駅からもう少し近ければ、更に多くの方々に来ていただけたのにと残念でした。しかし、一般には何分遠方の国々に住む子供達の絵を見る機会が殆どないこともあり、今回の絵画展を見にきてくれた方々は、大いに感動をされていたのが印象的でした。川崎国際交流センターの会場で、



当日書いてくれた沢山の感想文の中から二、三紹介します。

『僕は家族でお店におつかいに行っている絵を描きました。でも他にもいろいろな人の絵がいろいろな絵を描いていました。もっと絵が上手になりたいな』

栗原けいせい君

『今、見て恥ずかしくなったけれど選ばれて良かったと思う』 鈴木智子さん

『それぞれの国の文化が伺えて面白く観ました。特にセネガルは知らない国なので興味深いです。一つ一つにタイトルがあるともっと解り易いと思いました』

小泉さかえ先生

『クラスの子供達の絵がセネガル、ヴェトナムそしてフランスなどの子供達の絵と一緒に掲示されていて嬉しい。世界の子供達の絵はどの絵も夢溢れ、光り輝いていますね。世界の子供達に平和が続きますように』 沼崎トモ子先生

『祭り』がタイトルの本年は、更に大勢の方々に見て貰いたいものです。

コミティメンバー 前田 一記

良い手洗いの順序

14

ボランティアアソシエーション「手を洗おう会」

1 時計やブレスレットを
はずす

2 蛇口をひねり、
手を水でぬらす

3 せっけんをとり、
よく泡立てる

4 手のひらを
のぼすように洗う

5 指の間を洗う

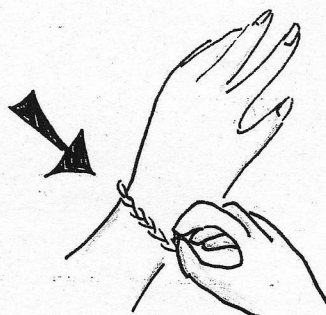
6 指先、爪の内側を洗う

7 親指を手のひらで
ねじり洗いをする

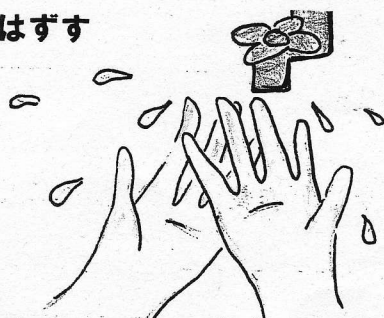
8 手首も忘れずに洗う

9 よくすすぐ

10 きれいなタオルで
手を完全に乾燥させる



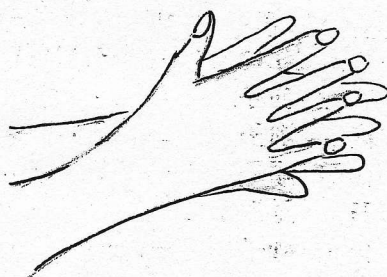
1 時計やブレスレットを
はずす



2 蛇口をひねり、手を水でぬらす



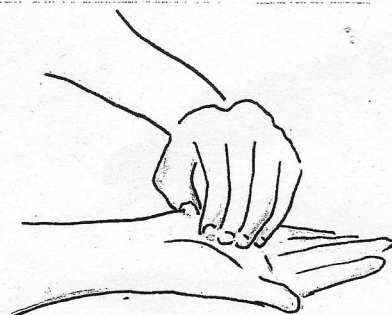
3 せっけんをとり、よく泡立てる



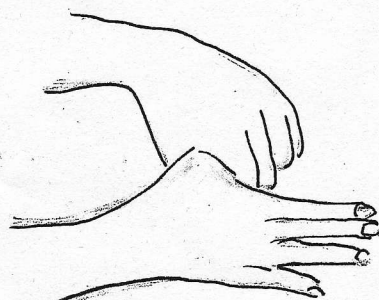
4 手のひらをのぼすように洗う



5 指の間を洗う



6 指先、爪の内側を洗う



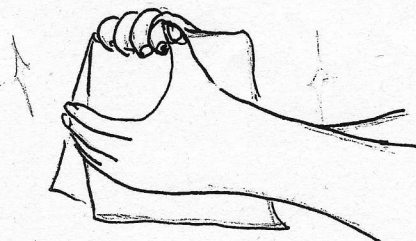
7 親指を手のひらで
ねじり洗いをする



8 手首も忘れずに洗う



9 よくすすぐ



10 きれいなタオルで
手を完全に乾燥させる

会計報告

2005 年 5 月

【収入】 科目	摘要	金額
会費収入	会費(2004 年度@¥3,000×12 名、2005 年度@ ¥3,000×106 名)	¥354,000
	募金 @¥500×560.02 口	¥280,010
	2004 セネガル・エキスポ・セッション収益(2004 年 12 月ウエスティンホテルにて)	¥952,086
	2004 水無月の宴収益(2004 年 6 月ウエスティンホテルにて)	¥48,633
	前田恵美子女史講演会(2004 年 10 月ジュン・アシタ・ブティックにて)	¥111,170
収入計		¥1,745,899
【支出】 科目	摘要	金額
活動費	2005 年 3 月セネガル・パリ支部	¥508,829
	2005 年 1 月ヴェトナム支部 (内訳)石鹸代・画材費・紙芝居制作費・バザー用品購入費・寄付	¥47,000
雑費	写真現像・コピー費用等	¥35,246
事務用品費	インク・封筒代等	¥14,258
通信費	お礼状・案内状送付費用	¥9,200
募金	新潟募金	¥32,500
支出計		¥647,033
収支計		¥1,098,866

(会計)石井里江子 (監査) 山田順子

<会費&募金募集>

年会費:3,000円 会費は年に一度お納めください。

お支払い方法:下記の会員にお支払い頂くか、下記口座にお振込み下さい。

- ・ 日本支部責任者:古屋 典子 Eメール:bonpain@fw.catv.ne.jp
内野 訓子 (TEL&FAX:03-3704-1229)
山田 順子 Eメール:junko_yamada.jp@yahoo.co.jp
石井 里江子 Eメール:rishii@inac-web.co.jp
飛鳥 妙子 Eメール:lecoeur@sweet.ocn.ne.jp

・振込口座:郵便局

記号 10080 番号 74878571

名義「手を洗う会」古屋典子

* 貴方様のお名前にてお振込み下さい。

募金: 1口 500円

30センチの棒 石鹸 (¥250円) × 2バー = 500円

* 石鹸が最も必要であるという観点から、手作り石鹸の指導も開始。
当会では会員を募集しております。

又上記の石鹸や指導資金の募金也大歓迎です。

ヴェトナム・フォン支部長家の揚げ春巻き（ネム）

<材料>

豚肉挽肉	200g
カニ又はエビのすり身	100g
春雨	50g
もやし	150g
卵	2 個
ライスペーパー	40 枚
椎茸	10g
玉葱	1 / 2 個



<調味料>

ヌオクマム（小匙4杯）、コショウ、ニンニク（1個）、砂糖（小匙3杯）、唐辛子（1個）、酢（小匙4杯）、他に青いパパイヤ（キュウリでも可）、ニンジン、レタス、パクチ、ミントなどの香草を適宜

<準備>

挽肉、カニ又はエビのすり身、コショウ、細かく刻んだたまねぎ、ニンニク、砂糖（小匙1杯）、ヌオクマム（小匙1杯）、細かく切ったもやしを入れ、よく混ぜ込み15分ほどおきます。お湯で戻した春雨、椎茸を細かく切り、卵をつなぎに入れ更に、さっと混ぜます。ライスペーパーに上記を大匙2杯分ずつ乗せて、両端を包みいれて巻きます。ライスペーパーは、砂糖又は蜂蜜が入っているぬるま湯で濡らし、濡らしたら直ぐ巻きます！

<揚げ方>

180度の油に春巻きをゆっくり入れ、きつね色に揚げます。弱火で揚げた方が綺麗に出来上がります。揚げた春巻きを油取り紙に置き、油をとります。

<ソース&付け野菜の作り方>

ヌオクマム（小匙3杯）に水（小匙3杯）、砂糖（小匙3杯）を入れ、更にお酢（小匙4杯）を加え、そこに細かく刻んだニンニク、唐辛子を入れて約15分おきます。青いパパヤ、ニンジン、パクチを薄く切って、ニンニクと唐辛子が入っている上記のソースの半分に入れ、更に15分おきます。半分はソース用！

<食べ方>お皿に狐色に揚げたアツアツの春巻きをレタスにのせ、他に香草、ソースに漬けておいたニンジンや青いパパヤ（キュウリ）と一緒に巻き込み記述のソースをつけてながら食べると気分はベトナム！フォンさん、謹感恩（シンカムオン）アリガトウ！！